

土佐和紙で地域づくりしてみんかよ？



地域のお宝情報誌
Vo.15
2022年5月発行

今回は、いの町あったかふれあいセンターで行われた『土佐楮へぐり体験』に参加してきました♪

『へぐる』という言葉は高知の方言で、特殊な包丁(デバ)で土佐楮の皮から表皮部分を削ぎ取る作業のことです。冬に収穫した土佐楮を蒸して皮をはぎ、その皮の纖維が土佐和紙の原料になります。



当日は、鹿敷製紙の方に協力して頂き、土佐楮の皮へぐりを体験させてもらいました。皮から表皮だけを削ぎ取る工程は、土佐和紙を加工する過程で、とても重要な作業です。はじめは表皮だけを削ぎ取る力加減が難しかったですが、慣れるとスーッと綺麗に削がれるので、癖になる体験でした。



多くの方が体験したことの多い紙漉きは、土佐和紙を作る中の最終工程で、それまでに多くの作業があり、そのほとんどが人の手によって行われています。その為、纖細できめ細かい和紙を作ることができ、それが長年愛されてきました。

鹿敷製紙で作られている土佐和紙も、歴史的な書物やルーブル美術館などの美術品の修繕に使用されています。



土佐和紙で有名な、いの町。昔から多くの住民が、土佐和紙で生計を立てていたそうです。しかし、長い年月が立ち、土佐楮の栽培・加工ができる人は少なくなっています。

いの町で昔から行われていた『へぐり』。昔から受け継がれてきた技術を、これからのいの町の地域づくりに生かしてもらいたい。そして、多様な集いの場で、『へぐり』を楽しんでもらいたい。大勢でわいわいも良し、1人で集中してやるも良し。土佐和紙の伝統や歴史を大切にした、いろんな形での社会参加につながる取組になつたら良いと考えています。

生活支援コーディネーターは、『みんなでつくるいの町』を目指して活動しています。

皆さんの取り組みや、やりたいことを教えてください！

お問い合わせは裏面まで☞

ポイ捨てせず、綺麗な景色を見いや。



地域のお宝情報誌
Vo.15
2022年5月発行

雲一つない快晴の日、本川地域にある名の谷グラウンドで、鳥居づくりが行われました。

本川地域では、ポイ捨てが地域課題となっており、少しでもポイ捨てを減らしたいとの思いから、鳥居を設置することになりました。

鳥居を作成するにあたり、本川の自然を大切に思っている住民の方と一緒に作りたいと考え、本川 GG クラブの皆さんにご協力をお願いしました。



大工仕事が得意なメンバーが多く、「簡易なやつじゃなく、頑丈なちゃんとした鳥居を作らないかん！」と、設計から考え、作成してくれました。

鳥居を作りながら、「製材屋さん、よろしく！」や「測量さん

お願い！」などと声をかけ合っており、日頃からの仲の良さを感じました。



本川地域には、いの町を代表する綺麗な景色や自然があります。住民の方は「ここから見る紅葉は見ものよ」などとよく景色の話をしてくれます。本当に本川の自然が好きなんだと感じました。しかし、ポイ捨てはなくならず、本川の国道沿いには、空き缶だけでなく生活ゴミが捨てられていることもあります。

本川だけではありません。いの町全域で考えていかないといけない問題です。

本川地域で働いている方から、仕事中もゴミ袋を持ち歩いて、ゴミを見つけたら拾っているというお話を聞きました。そのお話を聞き、誰かが拾ってくれるから…と素通りするのではなく、一人ひとりが、『ゴミがない綺麗な町を作りたい』と意識して行動することが大切だと感じました。

生活支援コーディネーターは、皆さんに行っている地域活動を応援します。皆さんの日常を教えてください！



お問い合わせ
いの町役場
地域包括支援センター
生活支援コーディネーター
TEL 088-893-0231